

履歴書

2012 年 5 月 3 日現在



ふりがな		ますい たかおき	
氏 名			
増井 隆興			
出身地	年齢	※	
東京	(満 30 歳)	男	
参加した NICE ボランティア		分野	
国際一鶴岡・大宮・仏・トルコ・エラブ島・湯沢 週末一飯田・野栄・日の出、他		ベンチ作り、公園作り、考古学発掘、ファームステイ、『障がい者施設でのワーク』、他	
場所 (国・市町村まで記入)	(湯沢を例として) 新潟県湯沢市		満足度
受け入れ団体	N I C E，湯沢社会福祉協議会		95%
			活動のやりがい度
			95%

こんなボランティアでした
地域の知的障がい者の就労支援の福祉施設での、日々の仕事のお手伝い(農作業、工芸品作り、炭作り他)・及び交流。

年齢	経歴
18 歳	日本大学理工学部建築学科 入学
	国際ワークキャンプ（山形県鶴岡）参加
	以降大学在学中に国際ワークキャンプは5ヶ所7回参加、週末キャンプ多数参加
23 歳	(株)ラバダブアンドカンパニー（和太鼓倭） 入社（入団）
29 歳	同社 退社
30 歳	現在 外資自動車部品の商社で営業業務
趣味・特技	美味しく食べること、身体を鍛えること、空手
座右の銘	他山の石を以て汝玉を攻むべし
参加までの旅行経験・ボランティア経験	
特になし	

記入上の注意 1：鉛筆以外の黒または青の筆記具で記入。2：数字はアラビア数字で、文字はくずさず正確に書く。
3：※印のところは、該当するものを○で囲む。

志望動機
親友が一足先に参加していて、「だまされたと思っていってみな」の一言でかる〜く

行くまでに心配だったこと（どう乗り越えたか）
最初の参加が大学 1 年生の夏で英語には全く自身はなかったですが、最初からなんとかなるさと思っていたので特に心配しておりませんでした。キャンプ中はほとんど気持ちで会話をしていたと思います(笑)。逆にキャンプが終わってから熱心に英語の勉強を始めました。

家族・友人・学校・職場の反応（私はこうやって説得した!）
基本自分は今までの人生ほとんど強行突破です(笑) ただ、キャンプにまるまる一カ月とか半月とか時間を使うだけあって、お金も必要ですし当然その前後はある程度はバイトにも学校のことにも精を出しますからその繰り返しで「本気度」を示していたように思います。実際は相手側が「諦め感」を感じるのとどちらが先か、だったでしょうか。

ワークキャンプとその後の人生（進路決定、参加経験が役立っていること等）
キャンプで得るものとはにかく「出会い」に尽きます。99%はもうそれだけではないでしょうか。年齢もお国も違うメンバーや地域で関わって下さる方々と、先ずはじめに出会いがあり、そこからつながって、色々なものが生まれてくるのではないかと思います。そんな中、自分の場合はいつの間にか想像力と、それを実現する行動力が育っていたように思います。大学入学のころはまさか自分が海外に行くなんてことは想像だにもできなかったことでした。それが次々にキャンプに参加していく中で、新しいことに飛び込んでいく上での「ためらい」のようなものが次第に薄れていったように思います。また、出会いの中で様々な価値観に触れることによって「こんなのも有りだな」「こんなこともできるな」という枠がどんどん広がっていったように思います。この価値観の転換がなかったら、それ以前の自分はまさに「判で押したような」学生でしたから、もちろん普通の就職をしていたかと思います。大学卒業後、太鼓の経験も無いのに世界を渡る和太鼓の団体に入団するなんてことは想像もできなかったでしょう。

成長ダイアグラム ※	これから参加を考えている人へ、熱いメッセージを♪
	「これもなにかの縁ですから」ということだと思います。知ってしまったことが始まりですので。あとはやった後でいくらかでも後悔？したらいいと思います。一度参加してしまうと「なんとなく終わりました」なんてことはないでしょうから、自分の殻をどんどん破って思いの丈「行動」起こしてください。

※成長ダイアグラム（5＝とても得るものがあつた・良くなった。4＝まあまあ得るものがあつた・良くなった。3＝前と変わらなかった。影響なし。2＝前よりもやや劣るようになった・悪くなった。1＝前よりもずっと劣るようになった・悪くなった。）